

編集後記：2009年夏は豪雨・地震による自然災害が多く発生しました。豪雨対策については「天気」読者の方々はよく御存じだと思われませんが、今回は個人的な体験から地震対策について書こうと思います。

今年8月11日に駿河湾を震源とする地震が発生し、静岡県では最大震度6弱を観測しました。この地震では、同規模の他地域での地震に比べて人的被害が小さかったことが明らかとなっています。被害が少なかった原因はいくつかあげられていますが、その中の一つに、「東海地震に備えて地震対策をおこなっている家庭が多かった（6割の家庭で何らかの耐震固定を行っていた）」ことがあげられています。

私事ですが、筆者は阪神・淡路大震災で本棚の下敷きとなった経験があります。さいわい本棚の一部が別の家具に引っかかったため負傷することは免れましたが、このときの震災の犠牲者の約1割は室内家具の転

倒による圧死だと後日知り、いかに自分が危険な状態だったのか思い知りました。それ以来、「就寝する部屋には大きな家具をおかない」、「どうしても置く場合は耐震固定をする」というのを心がけています。就寝時は機敏な対応をとることが難しいですし、大きな揺れの場合はそもそも立ち上がることすら困難でしたので、事前の対策が重要だと痛感しました（事前準備が大事なのは自然災害対策全般に共通ですが）。

皆様も自宅の家具の配置や耐震固定について、今一度点検されてはいかがでしょうか？もちろん地震対策以外でも、大雨・洪水といった気象災害についても事前に備えておける事があると思います。こういった普段からの対策（しかも負担の少ない）を講じることで被害を減らすことができます。ぜひ点検を！

（林 修吾）